



国民民主党和歌山県総支部連合会所属議員よりご挨拶 新年おめでとうございます



「県民を幸せにする」ために『健康長寿日本一わかやま』の実現を!!

昨年12月17日から、和歌山県政において岸本新制がスタートしました。岸本氏とは、この10年間、民主党、民進党、国民民主党と同党県連の彼が代表、私が幹事長として共に歩んできただけに、大いに期待をしております。

新知事就任後、記者会見において、「県民を幸せにすること」が県庁の仕事であるということを述べられておりましたが、正にその通りであると思います。

それは我々県会議員も立場の違いこそあれ、同じことが言えます。もちろんその「幸せ」の形は人それぞれであります。本県は他府県よりもより早く進む「人口減少」「高齢化」「要介護認定者急増」等の状況を考えたとき、県長期総合計画でも明示されている『健康長寿日本一わかやま』の実現こそが、県民の皆さんに「幸せにする」基礎であると、私は確信しております。

実は4期16年務められた仁坂・前知事が昨年の12月議会の一般質問の答弁の中で、「上手くいかなかったのは『健康長寿日本一』や『(和歌山)IR』など(後略)」と言われていました。

紀伊半島大水害や新型コロナ対策などで、県内外からも高い評価を受けていた仁坂・前知事さえ、この『健康長寿日本一わかやま』の実現は出来なかったと明言されていたことは印象的でしたが、実現する方法は、いくらでもあります。要は、トップリーダーとして姿勢と実行力だと思います。

「県民を幸せにする」ために、岸本知事には、自らがそのための〈起爆剤〉となって頂き、県民の皆さんのご協力も頂き、是非とも『健康長寿日本一わかやま』を実現して頂きたく存じます。私も最大限、応援させていただきます。



和歌山県議会議員(5期)

うらぐち こうでん
浦口 高典

1955(昭和30)年生まれ、和歌山市今福在住
早稲田大学教育学部教育学科 卒業
【党役職】和歌山県連代表
【所属委員会】福祉環境委員会委員長(3回目)
防災・国土強靱化対策特別委員会、予算特別委員会、IR対策特別委員会



和歌山市議会議員(4期)

ながの ひろひさ
永野 裕久

1973(昭和48)年生まれ、和歌山市出身
和歌山県立和歌山東高等学校 卒業
【党役職】和歌山県連幹事長
【所属委員会】厚生委員会、議会運営委員会、地震等災害対策特別委員会

「誰もが取り残されない社会」の実現に向けて

2023年。明けましておめでとうございます。早いもので令和も5年になり コロナ禍も4年目になります。厚生労働省では感染症の分類を2類相当から5類相当への見直し議論も本格化しており、今年はいよいよ本当の意味でのウィズコロナ・アフターコロナの時代に突入していくこととなります。感染症のパンデミックは数千何前から繰り返されてきたとはいえ、近年においてこれほど多くの尊い命が失われ、また、経済にも大きな打撃を与えた暗黒期は、今を生きる人々にとって記憶にないことでしょうか。しかし、いつまでも後ろを向いているわけにはいきません。逆境こそ飛躍のチャンスです。

昨秋には16年ぶりに新和歌山県知事が誕生しました。和歌山市は県庁所在地でもあることから、市民の地方政治における期待度は非常に大きく、今こそ、県市協調でアフターコロナ政策に向けた取り組みを行い和歌山の経済を活性化させる時です。

私は一市議会議員ではございますが、市民の皆様から信託を受けた政治家のひとりとして、市民の皆様との対話をモットーに「批判ではなく建設的な提言」を、また、現場主義をモットーに「机上ではなく迅速な行動」で、私が目指す政治活動の最終章である「誰もが取り残されない社会」の実現に向けて、2023年も着実に一歩ずつ市民福祉の向上に努めて参る所存です。

最後に私事ではございますが、今年満50歳となる人生の節目の年です。人生100年時代。ようやく人生の折り返し地点を過ぎる若輩者ではございますが、2023年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。「朝の来ない夜はない」を信じて。一所懸命。



費用対策効果を考え将来につながる政策を提案したい

謹んで新春をお祝い申し上げます。

新人議員としてお仕事をさせていただくようになって3年8カ月が経ち、昨年の12月議会では学校給食費の無償化、出生・子育てに関わる助成金の拡大や所得制限の撤廃を訴え一般質問に立たせていただきました。結果2023年度3学期の小学校給食費が無償化となり、以降についてもできるだけ早く予算を確保し恒常的な給食費の無償化に取り組む、と市長からも返答をいただきました。

人口減少・少子高齢化問題に関して言えば、さあ人を増やそうと言っても成果に繋がるまでに長い期間を要します。

人口が減れば、税収は減り、その他の問題解決に回す予算が減ります。最近、老後30年暮らすには貯蓄が2000万円必要であるというお話がありました。国民年金のみの受給者の場合は、その倍近い金額が必要となってきます。年金につきましても、時期やもらえる貰える金額も今後どうなるかわかりません。

政府は女性活躍を推進しているものの、共働きで収入を増やそうとすれば、高い税率や社会保険料がのしかかり、子どもを預けるにしても0~2歳児については非課税世帯以外は高額な保育料の支払いが発生し、各種手当については所得制限に引っ掛かり、その恩恵を受けることができません。このような状況でまともな将来設計を立てれる人はごく少数となり、結果先行きが見えないことから婚約数や出生数の減少に繋がっているのではないのでしょうか。こんな時だからこそ費用対効果を考え将来につながる投資を、和歌山市の今後を支えてくれる子ども達を増やすために、出生・子育て分野への予算配分を増やしていかなければならないのではないのでしょうか?私は、このような取り組みが今後の子育て世代による消費の拡大や、税収の増加、将来の和歌山市の発展につながるのではないかと考えています。

これからも国が行っている政策と実際の人々の生活状況の矛盾を、市独自の政策でカバーすることで、皆さんと住みよい和歌山市を創っていきたくと考えております。今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。

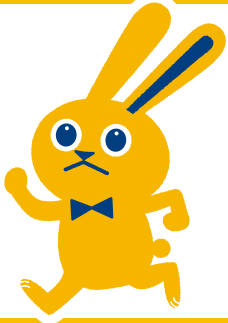


和歌山市議会議員(1期)

やま なか とし お
山中 敏生

1984(昭和59)年生まれ、和歌山市砂山出身
近畿大学経済学部経済学科 卒業
【党役職】和歌山県連幹事
【所属委員会】経済文教委員会、広報委員会

国民民主党が政策を先導!



国民民主党は、参議院選挙で訴えた公約をはじめ、今国会でも多くの政策を提案し、実現へとつなげてきました。とくに電気代の値下げは、国政政党で唯一参議院選挙の公約に掲げ、直近の臨時国会で実現することができました。

引き続き、すべては国民生活の向上のためと位置づけ、「対決より解決」の姿勢をもって、「給料を上げる。国を守る。」ための政策実現に取り組めます。

1 電気代値下げ

電気代値下げを参院選で唯一訴え法案提出

▶令和4年度第2次補正予算で事業者向けに1kw当たり3.5円、個人向けに1kw当たり7円相当の補助金を措置

2 自動車の補助金継続

電気自動車等クリーンエネルギー自動車購入補助の予算が枯渇寸前になり予算追加を提案

▶令和4年度第2次補正予算で財源追加

3 災害対策

台風15号や8月の豪雨災害について被害を視察し状況を首相に説明、早期復旧を直談判

▶令和4年度第2次補正予算で災害復旧予算、防災・減災・国土強靱化のための予算が措置

4 内密出産のガイドライン発出

様々な事情から匿名を望む母親が特定の人にだけ身元を明かして出産する「内密出産」の法整備を働きかけ

▶政府が内密出産のガイドラインを公表

5 防衛3文書改定

「安全保障政策2022」を取りまとめ首相に申し入れ

▶防衛3文書に反撃能力の保有やミサイル防衛強化、防衛費増額などが明記

6 悪質献金被害救済

心理的支配利用に伴う暴利行為による寄付の募集禁止、家族による損害賠償を可能とする議員立法等を取りまとめ政府与党と協議

▶上記考え方がベースとなり「法人寄付不当勧誘防止法」が成立

7 「人への投資」を加速

結党以来、人への投資、社会人の学び直し支援を訴え続ける

▶令和4年度第2次補正予算で「人材開発支援助成金」拡充

8 こどもみらい難民の救済

省エネ住宅の新築・改修を補助する「こどもみらい住宅支援事業」で、申請出来なかった方(こどもみらい難民)の救済を大臣に要請

▶後継事業「こどもエコすまいる支援事業」の要件の見直しを政府が発表

9 賛成し成立した議員立法等

●離島振興法改正案 ●C型肝炎給付金支給特措法改正案 ●子育て給付金差押禁止法案 ●北朝鮮ミサイル発射抗議決議案 ●新疆ウイグル等人権状況決議案※

※党の修正案が採用されました

「対決より解決」で日本を動かす。
国民民主党の政策はこちら

